

めぶき東アジアレポート

MEBUKI EAST ASIA REPORT

Shanghai / Hong Kong / Taiwan

2024年 No.1

【上海通信】中国のスタートアップ市場	1
【東アジア駐在員コラム】香港の人気アクティビティ「ハイキング」	3
【ニューストピックス】72/144時間のトランジットビザ免除政策、11月～12月の動き	4
【めぶきFGアジアネットワークのご紹介】	5

常陽銀行上海駐在員事務所

上海市長寧区延安西路2201号
上海国際貿易中心1901室
TEL : +86-21-6209-0258
E-mail : joyosh@uninet.org

足利銀行香港駐在員事務所

Suite 1601, 16/F, Tower 2 The Gateway
Harbour City, Tsim Sha Tsui, Kowloon, HK
TEL : +852-2251-9475
E-mail : hongkongrep@ashikagabk.com.hk

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願いいたします。

発行元：常陽銀行市場国際部





【上海通信】中国のスタートアップ市場

1. はじめに

近年、中国のスタートアップ企業が急成長しています。筆者は「アジアのシリコンバレー」と呼ばれる深圳市で開催された中国最大級のテクノロジー分野の総合展示会「中国国際ハイテク成果交易会 (CHINA HI-TECH FAIR)」を視察しました。今回は、その様子も含め中国スタートアップ市場をレポートいたします。

2. スタートアップとは

(1) スタートアップとは

スタートアップとは「新しいビジネスモデルや市場を開拓し、社会に新しい価値の提供・貢献することによって事業の価値を短期間で飛躍的に高め、株式上場や事業売却を目指す企業や組織」と位置づけられています。

その中で、設立10年以内で時価総額10億米ドル以上の非上場企業は「ユニコーン企業」と呼ばれています。

(2) ユニコーン企業の誕生する背景

近年米国と中国ではユニコーン企業が次々と誕生していますが、その理由として以下があげられます。

①資金調達が多様化	ベンチャーキャピタルからの資金、クラウドファンディング、非上場のセカンダリー取引など、様々な方法による調達が可能となっています。
②IT技術の進歩	2000年以降のIT技術の進歩は言うまでもありませんが、現在はAI、ChatGPT、ドローンなど、従前の産業構造を短期間で一気に変化させる可能性を秘めたものが数多く出現しています。このため将来性を見据えて、テクノロジー分野の先端技術に対し積極的に投資する人が増えています。

3. 中国のスタートアップ市場

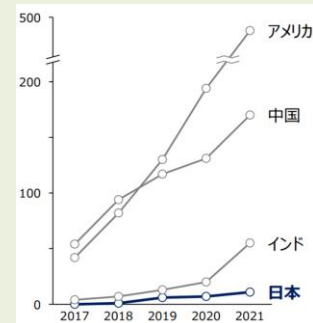
(1) 世界の中の中国

米国の調査会社「CB Insights」によると、世界のユニコーン企業数はここ数年で大幅に増加し、2023年4月時点で1,200社超となっています。国別では米国、中国が上位を独占していますが、近年ではインド・韓国・シンガポールも、国を挙げてユニコーン企業創出のためのスタートアップ支援に力を注いでいます。

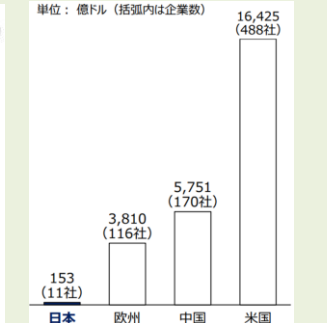
(2) 中国のスタートアップ市場の特徴

中国で多くのスタートアップ企業が誕生する理由は、百度、テンセント、アリババといったIT企業が成功を取めたことで、後に続く企業の自信に繋がっているためと考えられます。また、米国のファーウェイやZTEへの制裁による半導体国産化の加速や新エネルギー車の台頭、高齢化社会の進行といった国内動向もあり、2020年以降は半導体・電子設備、新エネルギー、ヘルスケア分野への投資が盛んに行われています。エリア別では、百度やBYDのイメージから深圳市が断トツと思いきや、意外にも北京市だけで4割以上を占めています。これは、北京大学、清華大学、政府機関などが集積し、産学官連携や資金調達面で優位性があるためと思われます。

【ユニコーン企業数の推移】

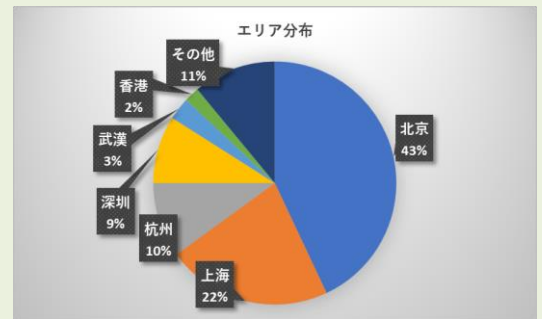


【ユニコーン企業価値の国別合計】



出所：経済産業省経済産業政策局

【ユニコーン企業の分布】



出所：CB Insights

(3) 足元の状況

しかしながら、2021年までは順調に企業数を伸ばしてきたものの、2022年以降はその勢いにブレーキがかかり、概ね横這いで推移しています。要因としては、中国国内の産業改革に伴う規制強化、新型コロナウイルス(COVID-19)による経済の減速、外国資本の中国離れ、などがあげられます。

4. CHINA HI-TECH FAIRを視察して

去る11月15日～19日、深圳市にてテクノロジー分野の総合展示会「中国国際ハイテック成果交易会(CHINA HI-TECH FAIR)」が開催されました。2会場50万㎡のスペースに105の国・地域から4千以上の出展者が参加し、入場者は延べ24万8千人に上りました。

今年の注目分野は、AI、半導体、モバイル通信、デジタルエンターテインメントなどに関連する先端技術で、特にAIテクノロジーのブースでは、商用化を実現したアプリケーションに多くの人が魅了されていました。筆者としては、今の中国トレンドを代表する下記製品が特に印象深く感じました。



デジタルヒューマンによるライブコマース



掌紋認証による決済・認証



低空経済を代表するドローンによる配達



従来の食文化を覆す全自動調理ロボット

また、茨城県つくば市からスタートアップ2社が参加しました。(株)Thermalyticaはエアゲルを独自の技術で再設計した超断熱素材「TIISA®」を、(株)SIJテクノロジーは微小な液滴を吐出できる「スーパーインクジェット技術」による製品を展示し、現地メディアや多くの来場者の関心を集めていました。深圳の地元企業の方からは「中国には現時点で、これほどの技術を有する企業はない。」と称賛のコメントがありました。

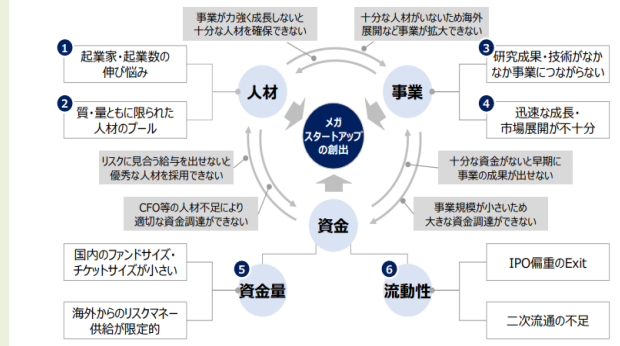
5. 日本のスタートアップに関する現状

日本でもユニコーン企業を創出していますが、その数は米国のみならず、世界との差が開く一方となっています。また、米国や中国では、デカコーン(100億ドル超)、ヘクトコーン(1,000億ドル超)と呼ばれる企業価値の大きいスタートアップ企業も存在するのに対し、日本は規模の面でも後れを取っているのが実情です。

経済産業省では、日本のスタートアップが伸び悩むのは、人材・事業・資金の各面で課題があり、さらにそれぞれの課題が相互に絡み合い、好循環が生まれていないことにあるとみています。こうした問題を一つ一つ解決し、JETROなどを通じたハンズオン支援により積極的な海外展開を促すなど、サポート強化を進めています。

【日本のスタートアップに対する現状認識と課題】

●我が国のスタートアップエコシステムは、人材・事業・資金の各面で課題があり、さらにそれぞれの課題が相互に絡み合い、好循環が生まれていない状況。



出所：経済産業省経済産業政策局

6. おわりに

巨額の利益を生み出す可能性を秘めたユニコーン企業を創出すべく、世界ではさまざまな支援が行われ、スタートアップ企業の成長を後押ししています。政府によるスタートアップ支援の拡充は世界各国に広がっていくと予想され、景気減速の中にあるものの、ユニコーン企業数は今後も一定ペースで増え続けると考えられます。引き続き中国のスタートアップに注視していきたいと思えます。

(常陽銀行上海駐在員事務所 王嬌)

～香港の人気アクティビティ「ハイキング」～

「100万ドルの夜景」で有名な香港は、高層ビルが立ち並ぶ大都会のイメージが強いですが、実際は面積の4分の3程度が山や森林に覆われた自然豊かな地域です。公共交通機関が発達している香港では、そんな大自然に容易にアクセスすることができ、各地に何百ものハイキングコースが整備されていることから、ハイキングは最も人気のあるアクティビティの一つとなっています。

香港に豊かな自然が広がる背景には、イギリスによる統治と深い関わりがあります。もともとイギリスでは自然保護を重視する文化があり、第二次世界大戦によって丸裸になってしまった香港の自然を取り戻すべく、当時の政府は大規模な植林事業を実施しました。1976年には、指定地域に一切の人工物の設置を禁止する「郊野公園（Country Park）条例」が制定されたことで、その後急激な経済成長に伴う開発が行われた中でも、香港の自然は条例によって守られてきました。

さて、この度、事務所のメンバーでハイキングに行きました。今回は、香港4大コースの一つ「マクリホーストレイル（図内4番のコース）」の一部である、香港最高峰の大帽山（Tai Mo Shan）にチャレンジしました。標高は957mの低山ですが、長い登り階段や急こう配な坂道などがあり、決して楽な道のりではありませんでした。しかし、途中で香港の街中を見下ろせる絶景ポイントや、野生の牛が生息する地域もあり、飽きることなくゴールすることができました。下山後、お腹がペコペコな状態で食べる中華料理は格別で、とても良い休日となりました。皆様も香港にお越しの際は、ぜひハイキングにチャレンジされてみてはいかがでしょうか。（足利銀行香港駐在員事務所 現地スタッフ 温秋芳）

<香港の4大ハイキングコースマップ>



出典：当地情報誌PPWより

<ハイキングコースの入り口>



出典：筆者撮影

<大帽山から見る香港の街中>



出典：筆者撮影

<下山後に食べた中華料理>



出典：筆者撮影

～72/144時間のトランジットビザ免除政策～

皆さんは「72/144時間のトランジットビザ免除政策」をご存じでしょうか。現在日本から中国へ渡航する際には、必ずビザを取得する必要があります。ところがこの裏では、国際線の航空会社が中国を経由して第三国に渡航する場合、中国国務院が指定した一定時間（72時間/144時間）以内であれば、特定地域にビザなしで滞在することができる、という制度が存在しています。

今回友人がこの制度を利用し、上海に立ち寄ってくれました。入国前、無事イミグレーションを通過できるかかなり心配していましたが、一般のイミグレーションと違った以外は、特段難しい手続きも必要とせず、簡単に通過することができたそうです。友人は24時間にも満たない上海滞在で慌ただしく第三国へ旅立って行きましたが、10年ぶりの訪中に大変満足気な様子でした。

日本人の中国渡航14日間ビザ免除措置は、引き続き停止されています。ビザなしの訪中は少々ドキドキしますが、この制度を利用してチャレンジングな訪中を実現してみたいはいかがでしょうか。

制度対象国	54か国（日本含む）
滞在期間	長沙市、ハルビン市、桂林市（72時間以内）
	北京、天津、上海、重慶など全20都市（144時間以内）
要件	制度対象国のパスポート
	滞在時間内、座席が確定した第三国への乗継航空券
	記入済みの外国人出入境カード

（常陽銀行上海駐在員事務所 中村友宣）

< 制度利用の要件（2023年12月13日時点） >

- ・23年新車販売、過去最高の2950万台へ（11/14）
- ・外商投資企業の新設、1～9月はコロナ超え（11/16）
- ・住宅価格の下落継続、新築値下がり都市が1年ぶり多さ（11/17）
- ・広州モーターショーが開幕、日系、新エネ車分野での挽回期す（11/20）
- ・人民銀、LPR据え置き＝3カ月連続（11/21）
- ・在中日系企業、事業拡大意欲が初の3割割れ（11/22）
- ・みずほ中国で証券会社申請、100%出資は日系初（11/24）
- ・流行中心はインフルエンザ、中国（11/27）
- ・来年の経済成長5.5%超え、PwC予測（11/27）
- ・不動産指標、来年も下落へ、見えぬ底、収入見通し好転が鍵（11/27）
- ・民間企業の経営依然厳しく（11/29）
- ・1～10月貨物輸送、鉄道・航空が伸び拡大（12/1）
- ・不動産市場、24年に緩やかな回復へ＝S&P（12/1）
- ・即席コーヒー市場が成長（12/1）
- ・中国ホンダで900人削減、EV普及で苦戦（12/4）
- ・BYDの11月販売、7カ月連続で最多更新（12/4）
- ・中欧班列の1～11月輸送量、22年通年超え（12/7）
- ・介護人材170万人不足、急速な高齢化で（12/7）
- ・中国企業の海外上場熱再び、香港や米国で（12/8）
- ・CPIのマイナス続く、21年年初以来（12/11）

（出所 NNA・亜州ビジネス）

めぶきFGアジアネットワークのご紹介

お客様の海外進出をサポートするため、様々な機関や外国銀行と業務提携を結び、支援体制の強化を進めています。

提携先	常陽	足利	主な業務内容
中国銀行（中国）	●	●	中国国内情報の提供および各種金融サービスの提供
交通銀行（中国）	●		
中国信託商業銀行（台湾）	●		台湾情報の提供および各種金融サービスの提供
カシコン銀行（タイ）	●	●	タイ国内情報の提供および各種金融サービスの提供
バンコック銀行（タイ）	●		
バンクネガラインドネシア（インドネシア）	●		インドネシア国内情報の提供および各種金融サービスの提供
CIMBニアガ銀行（インドネシア）		●	
ヴィエティンバンク（ベトナム）	●		ベトナム国内情報の提供および各種金融サービスの提供
ベトコム銀行（ベトナム）	●	●	
ベトナム外国投資庁（ベトナム）	●		ベトナム関連セミナーの開催協力 ベトナム進出に関する各種支援、投資関連情報の提供
BDOユニバンク（フィリピン）	●		フィリピン国内情報の提供および各種金融サービスの提供
メトロポリタン銀行（フィリピン）		●	
インドステイト銀行（インド）	●	●	インド国内情報の提供および各種金融サービスの提供
パナメックス（メキシコ）	●	●	メキシコ国内情報の提供および各種金融サービスの提供
アグアスカリエンテス州政府ほか（メキシコ）	●	●	メキシコに関する現地市場調査 投資情報の提供
日本貿易振興機構（JETRO）	●	●	海外事業展開や各国制度等に関する各種情報提供
国際協力機構（JICA）	●	●	途上国での海外事業展開や各国制度等に関する各種情報提供
国際協力銀行（JBIC）	●		海外展開支援融資の提供
日本貿易保険（NEXI）	●	●	輸出取引を行う際の海外取引リスクに備える各種貿易保険の提供
中小企業基盤整備機構		●	海外事業展開や各国制度等に関する各種情報提供
東京海上日動火災保険	●	●	海外リスク情報等の提供 リスクマネジメントコンサルティングサービスの提供 各種損害保険の提供
損害保険ジャパン	●	●	
三井住友海上火災保険	●	●	
セコム	●		海外での安全システム・防犯危機商品の提供 海外セキュリティーサービスの提供
総合警備保障	●		

常陽銀行 シンガポール駐在員事務所	10 Collyer Quay, #09-07A, Ocean Financial Centre, Singapore, 049315 TEL:+65-6225-6543
常陽銀行ハノイ駐在員事務所	5th Floor, Sun Red River, 23 Phan Chu Trinh Street, Hoan Kiem District, Hanoi, Vietnam TEL:+84-24-3218-1668
常陽銀行上海駐在員事務所	上海市延安西路2201号 上海国際貿易中心1901室 TEL:+86-21-6209-0258
常陽銀行 ニューヨーク駐在員事務所	712 Fifth Avenue, 8th Floor, New York, NY 10019 TEL:+1-347-686-8420
足利銀行香港駐在員事務所	Suite 1601, 16th Floor, Tower 2, The Gateway, Harbour City, Kowloon, Hong Kong TEL:+852-2251-9475
足利銀行バンコク駐在員事務所	689, Bhiraj Tower at Emquartier, 27th Floor, Room No.2714, Sukhumvit Road, Klongton-nue, Wattana, Bangkok, Thailand 10110 TEL:+66-2-261-2852

